

御師町お休み処



■御師町お休み処

御師旧外川家住宅は、平成25(2013)年に富士山世界文化遺産の構成資産となり、新たなスポットとして注目を浴び、多くの来訪者で賑わっています。

お越しいただく来訪者のみなさんに利便性を高めたサービスを提供するため、駐車場内に案内所、トイレ、売店機能を併せ持つ「御師町お休み処」を建設しました。

施設内には富士山の信仰登山が盛んだった頃の上吉田地区の

町並みを紹介するジオラマが展示され、富士山駅から北口本宮



富士浅間神社までのエリアの情報発信拠点としていきます。

■上吉田のジオラマと富士山



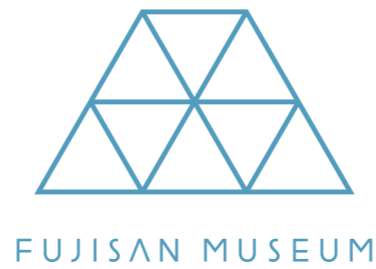
FUJISAN MUSEUM

ふじさんミュージアム

ご案内

- 開館時間 / 午前9:30~午後5:00 (午後4:30迄入館可)
 休館日 / 火曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(日曜・祝日を除く)、年末年始
 観覧料 / 大人400円(団体320円)
 小中高生200円(団体160円)
 ◎富士山レーダードーム館・御師旧外川家住宅との共通入館券: 大人800円(団体600円)
 小中高生450円(団体350円)
 交通案内 / ●中央自動車道河口湖ICより車で15分
 ●東富士五湖道路山中湖ICより車で10分
 ●富士急行線富士山駅より山中湖方面バス15分「サンパークふじ」または「富士山レーダードーム前」下車
 駐車場 / 西側駐車場: 普通車35、バス6
 東側駐車場: 普通車20、バス5、身障者1

〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田2288-1 TEL 0555-24-2411 FAX 0555-24-4665 ホームページ URL ●http://www.fy-museum.jp/
 2288-1 KAMIYOSHIDA, FUJIYOSHIDA-SHI, YAMANASHI-KEN 〒403-0005 FUJISAN MUSEUM 発行/平成27年11月15日 印刷/K2・ONE



FUJISAN MUSEUM

Contents

- ・ふじさんミュージアム
- ・展示紹介
- ・付属施設のご案内



FUJISAN MUSEUM
 ふじさんミュージアム

ロゴマークは、富士山の象徴的な形「台形」を小さな8つの三角形の集合体で表現しています。古来より日本では8は聖数とされ、漢字で「八」と書くと下の方が広がる事から「未広がり」を意味し幸運とされていて、富士山信仰においても、山頂の八葉(八峰)、八海めぐりなど聖数として扱われてきています。「ふじさんミュージアム」のロゴマークとしては、①世界遺産 ②芸術 ③信仰 ④歴史 ⑤自然 ⑥民俗 ⑦学習 ⑧観光 という博物館の8つ特性をあらわして、富士山をさまざまな角度から考察しようという博物館の姿勢を表現しています。



歴史民俗博物館リニューアル!
 「ふじさんミュージアム」

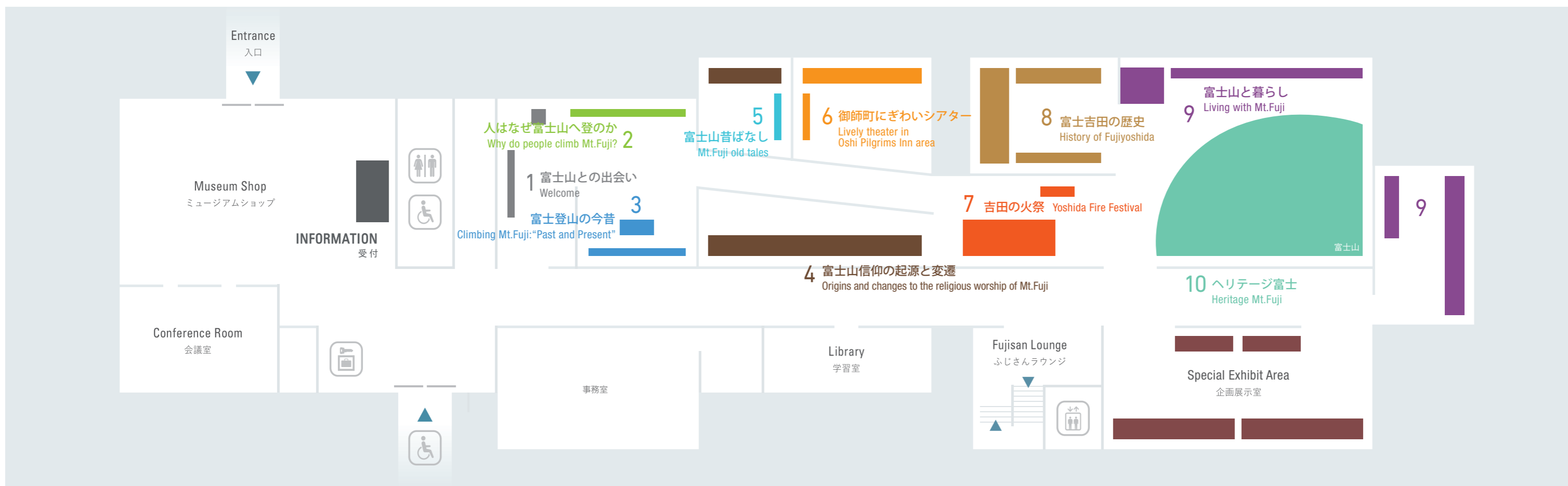
ふじさんミュージアムの前身として昭和54(1979)年、郷土の歴史と富士山信仰を紹介する施設「富士吉田市郷土館」が開館しました。富士吉田市を中心に富士北麓の歴史民俗資料の調査・研究・収集・展示等の博物館活動をこなってきましたが、展示の見直しや収蔵スペースの拡張を目的に平成3~4(1991~92)年度に増改築と展示改装を行ないました。その改修を機に、平成5(1993)年に富士吉田市郷土館から「富士吉田市歴史民俗博物館」として開館しています。この博物館では、「富士山の信仰~北口登山」「郡内織物~

地域を支えた産業」をテーマ展示とし、さらに市全体を紹介する「歴史~富士吉田市の歩み」「民俗~日々の暮らしと祭り」の4つの分野で展示を構成しました。開館から20余年が経過し、郷土館時代からの設備および建物の老朽化や注目を集める富士山について展示の見直しも検討され、平成24年度に博物館リニューアル推進室が設置され、設計・施工を進めていきました。そして、平成27年4月4日、歴史民俗博物館と同じく、4つの分野を踏襲しつつ「富士山信仰」に関するテーマ展示をメインとして、今も昔も変わるこ

なく人びとから愛される富士山について、誰もが気軽に楽しく学ぶことができ、富士山の魅力を余すことなく伝えられるミュージアムとしてリニューアルしました。展示は、プロジェクションマッピングやタッチモニター、映像シアターなど最新の映像技術を駆使して、富士山にかかわる歴史民俗の貴重な資料をわかりやすく展示しています。博物館の正式名称は、「富士吉田市歴史民俗博物館」ですが、リニューアル後は「ふじさんミュージアム」の愛称を用いて博物館活動をおこなっていきます。

展示紹介

歴史民俗博物館リニューアル！「ふじさんミュージアム」



■図1 案内図

新しい博物館

▷外観・設備機器の改修

博物館リニューアルでは、経年変化による建物外壁及び防水シート劣化がみられました。また、空調機器等の設備も郷土館時代を含めると35年を経て

おり、修繕もままならないことから全て入れ替えをおこないました。外壁については、やはり経年によって生じたヒビ割れ等を補修し、再塗装を行っています。

▷エントランスロビースペースを増築

前施設では、エントランスおよびロビースペースが狭く、来館者がゆっくり過ごせる規模ではありませんでした。そのため、約300㎡をエントランスロビーとして増築し、開放感のあるスペースを確保しました。また、多くの方が訪れる道の駅エリア(レーダードーム館・アリーナ等)との連携を推進するため正面玄関を国道側へ設けました。ここには、休憩スペースやミュージアムショップ、会議室をあらたに設置しています。

▷「ふじさんラウンジ」を設置。

これまで展望室としていた4階のスペースには、富士山を展望し、休憩がとれる「ふじさんラウンジ」を整備しました。富士山を望める天気の良い日には、大きく富士山を間近に見ることができます。屋外には高倍率の望遠鏡も設置しており、条件がよければ登山道を歩く人々の姿をみることが出来ます。



■ふじさんラウンジからの眺め

▷展示室内及び展示コンテンツを一新

このたびのリニューアルの目玉は、何と言っても展示の全面リニューアルです。これまでは、モノ資料を中心とした、どちらかといえばイメージ的に「暗〜い」という感想もある展示室でしたが、展示レイアウトを大幅に変更し、明るさと広がりを感じられる空間となっています。実物資料も富士山信仰を中心に貴重な資料を展示しています。

また、資料や解説だけでは説明しきれない要素もあるため、映像等を用いながら誰でもわかりやく学べる展示を目指しました。

展示解説として、希望者には解説員が展示ガイドを常時おこなっています。また、室内の解説パネルおよび映像には日本語と英語の二ヶ国語表記をおこない、合せて音声ガイドも導入しています。(貸出は無料です)映像の一部には手話モードを設けています。

施設の概要

地上4階建て、3階部分に玄関ロビー及び展示室
延べ床面積 3,900㎡

- 総合展示室……………818㎡
- 企画展示室……………128㎡
- 4階展望室「ふじさんラウンジ」……………80㎡
- エントランス・ロビー等……………726㎡
- 学習室……………50㎡
- 収蔵スペース(1・2F)……………992㎡

展示紹介

あたらしくなったミュージアムの展示を紹介します。

新しく再構成された展示は、「富士山信仰」と「富士山とともに歩む」という2つの大きなテーマから成り立っています。富士山信仰では、以下の展示項目を設定し展示解説しています。

1 富士山との出会い

導入展示では、墨絵風アニメーションを用いた美しい映像により、富士山信仰の世界に来館者を誘います。少し進むと

上吉田の入口に立つ金鳥居があり、その奥には富士山の立体模型が見えます。これは、富士登山者を迎えた御師町「上吉田」と

そこから富士山頂へと続く「吉田口登山道」を象徴したものとなっています。



■導入展示



■御師町上吉田をイメージした展示空間

2 人はなぜ富士山へ登るのか?

富士山には、平安時代から現在に至るまで、多くの人びとが、その山頂や山麓を目指してやってきました。彼らは、信仰者、芸

術家、科学者であり、富士山に神や美や自然など多種多様な魅力を見出してきました。「富嶽人物百景」は、こうした富士山に魅了された人々をタッチパネルモニターにより紹介します。(英語対応)



■富嶽人物百景

■アイコンをタッチすると昔の絵図や現在の写真、音声解説、タイムラプス動画など、さまざまな情報をみることができます。



■登山装束や参詣札などを展示



■富士山デジタル今昔絵巻

4 富士山信仰の起源と変遷

第1コーナーでは、富士山の神とその信仰の起源を紹介します。富士山は、古来より激しく噴火する山として知られ、奈良・平安時代になると、人々はこの噴火を富士山の神である浅

間大神の怒りとみなし、その怒りを静めるために、多くの浅間神社を建立してきました。また、平安時代には仏教も影響を受け、富士山には仏も住まうとみなされるようになり、多くの修

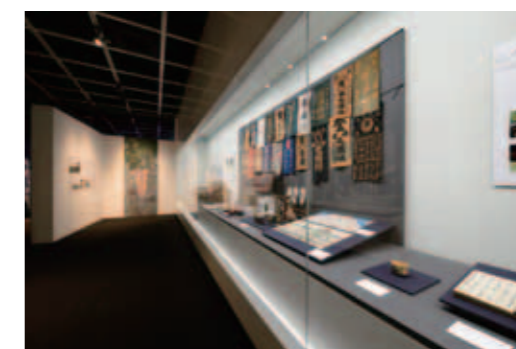
験者の修行の拠点となるとともに、山中に多くの仏像が安置されていきます。展示では、こうした仏像や神像を見ることができ

ます。第2コーナーでは、江戸時代

に隆盛を極めた富士講と彼らを迎えた御師により育まれた富士山信仰の文化を紹介します。富士講については、関東地方を中心に約9,000ヶ村で組織されたこと示すマップや、御師のために奉納した食膳具や神殿など様々なものを展示します。また、富士講隆盛の立役者である食行身禄については、富士講の信仰対象として大切に残されてきた身禄の遺品などを展示します。そして、御師と富士講が、寺と檀家または神社と氏子と同様の深い交流があったことも、解説パネルを用いて分かりやすく紹介します。



■第1コーナー



■第2コーナー

5 富士山昔ばなし

富士山信仰の起源と変遷のコーナー内に、富士山にまつわる伝説を紹介する、「富士山昔ばなし」と題したアニメーション展示を設けています。「ダイジャポッチャ(ダイダラボッチ)」「このはなまきくやひめ(木花開耶姫)」「かぐや姫」「聖徳太子」の4つのお話で、小さな

お子さんにもわかりやすく紹介します。(手話モード有)



7 吉田の火祭

その昔に担がれた明神神輿と御山神輿だけでなく、松明職人が製作した実物の大松明、火祭り絵図や版木を展示していま

す。また、火祭りの由来と歴史や、2日間にわたる祭りの流れや内容も紹介しています。



■神輿と大松明

6 御師町にぎわいシアター

150インチのプロジェクター映像により、「御師町と富士講」、「北口本宮富士浅間神社と吉田口登山道」、「吉田の火祭」を紹介します。「御師町と富士講」、「北口本宮富士浅間神社と吉田口登山道」では、往時のようすが分かる絵画や写真のみならず、御師町・浅間神社本殿の再

現CG映像や富士登山の再現映像を用いて、江戸時代の富士山信仰とその隆盛を、疑似体験できるものとなっています。「吉田の火祭」は、2日間にわたって盛大に執り行われる祭りの様子を、現在の映像により紹介します。(英語対応：手話モード有)



■御師町にぎわいシアター

展示紹介

あたらしくなったミュージアムの展示を紹介します。

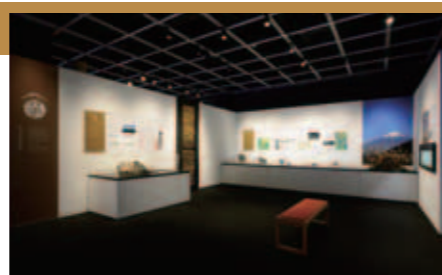
富士山とともに歩む

8 富士吉田の歴史

縄文時代から平安時代に富士山は幾度も噴火を繰り返してきましたが、人々はこの噴火により被害を受けつつも、永きにわたって富士山麓で暮らしを営んできました。展示では、この噴

火により厚く堆積した火山灰を見ることができる土層や、火山灰や溶岩の下から発見された当時の貴重な生活用具を見ることができます。また、水源がなく苦勞を強いられた新倉地区の人び

とが、河口湖から水を引くために手作業で約4kmを掘り抜いた「新倉掘抜」についても、映像で分かりやすくみることができます。



■富士吉田の歴史

9 富士山と暮らし

富士山麓の厳しい風土で育まれた織物文化や、暮らしと祭りの文化を紹介します。織物は、郡内織物やとして知られ、多くの人々が着物に仕立てるなどして愛用してきました。この甲

斐絹の歴史を示す生地や着物を展示するとともに、高度経済成長期から現代に至る甲斐絹の発展について、現在の工場の映像や、その工程を示す染料、糸、生地、製品（ネクタイ・傘）な

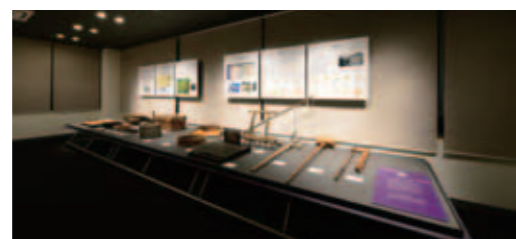
どの展示品をとおして紹介しています。

また、富士山麓の暮らしを特徴づけるのが、粉食文化です。当地では、冷涼な気候のため米作りが難しく、戦後になるまで

は、もっぱら大麦・小麦・アワ・ヒエ・キビ・トウモロコシなどの雑穀類を栽培してきました。そして、これらを粉にし、丸めて焼いたり（ヤキモチ）、麺にして煮たり（ホウトウ）、茹でたり（ウドン）して食べる独特の食文化が育まれたのです。展示では、こうした粉食文化を示す農耕用具や調理用具だけでなく、豊作を願って盛大に行われた祭りの用具なども見ることができます。



■郡内織物



■民具

10 ヘリテージ富士（富士山プロジェクションマッピング）

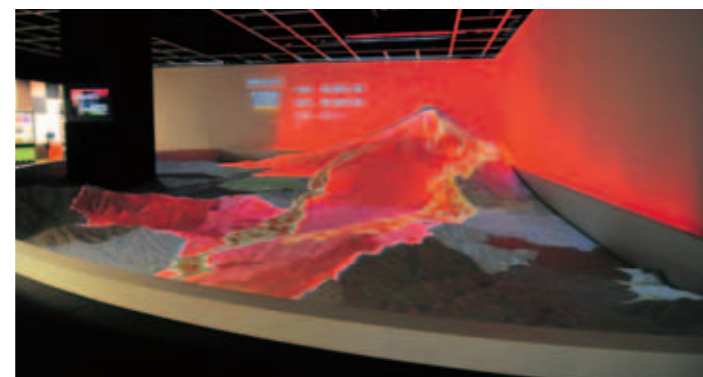
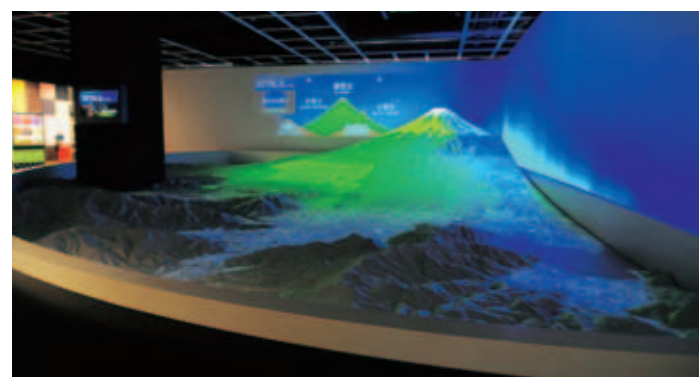
縮尺1/2,000の富士山の大型立体模型に、複数のプロジェクターにより、衛星写真を元にした映像が投影されることで、来館者は、鳥の目線で富士山と山麓を一望することができます。また、立体模型の背後には

スクリーンがあり、そこにはさまざまな映像が投影されます。メイン映像「吉田の郷と富士山の四季」では、四季の移ろいに応じて、立体模型の富士山もダイナミックに変化し、雪のない夏の富士山から雪に覆われた

冬の富士山まで、様々な富士山の姿を見ることができます。

「富士山の八不思議」では、富士山の高さ、富士吉田市の面積、世界遺産富士山の構成資産の数、富士登山競走の最速タイム、富士山が噴火した年、富士山の

雪代が発生した年、富士吉田市の遺跡の数、富士山の山中区分の数という8つの数字をキーワードに、富士山にまつわる知られざるトピックスを、富士山立体模型と映像を用いて、分かりやすく紹介します。



付属施設のご案内

エリア内付属施設について

エリア内には付属施設として、国指定重要文化財小佐野家復原住宅の「御師住宅」、宝永年間（1704～）に建造されたという「旧宮下家住宅」、養蚕のための兜づくりの屋根となった「旧武藤家住宅」があります。（※旧武藤家住宅はメンテナンスのため休館中）

御師住宅 （小佐野家模造復原）



旧宮下家住宅 （県指定文化財）



旧武藤家住宅 （市指定文化財）



鐘山の滝

市内の名所のひとつでもある「鐘山の滝」は、博物館東側駐車場から鐘山通りを挟んですぐにあります。

今後、滝周辺の整備を進め、より見学しやすい環境作りに取り組んでいきます。



御師旧外川家住宅 ～本物の重要文化財で富士山の歴史を学ぶ～



■旧外川家住宅



■解説員によるご案内

御師（おし）とは富士山を信仰する人たちの登山の世話をし、自宅を宿泊所として提供しながら、信仰者に代わって祈りをあげ富士山信仰を広める役割を果たす人のことで、その住まいを御師の家と呼びます。

江戸時代の最盛期には86軒の御師が上吉田地区に住まいを構え富士山信仰を支えていました。富士山世界文化遺産の構成資産でもある旧外川家住宅は当時の姿を残す貴重な建物で、富士山信仰と御師との関わりを学ぶことができます。

ガイド（無料）が分かりやすく解説・ご案内します。

（平成23年6月20日重要文化財指定、富士山世界文化遺産構成資産）
所在地：富士吉田市上吉田3丁目14-8 TEL 0555-22-1101（FAX 共通）
開館時間：午前9時30分～午後5時00分（入館は午後4時30分まで）
休館日：火曜日（祝日を除く）／祝日の翌日（日曜・祝日を除く）／年末年始
観覧料：大人100円（団体80円）／小中高生50円（団体40円）

交通案内：・中央自動車道河口湖ICより車で5分
・東富士五湖道路山中湖ICより車で15分
・富士急行線富士山駅より山中湖方面バス3分「北稜高校入口」下車
・富士急行線富士山駅より徒歩10分